

突撃インタビュー

編集部ハルちゃんが行く！

ハルちゃんって誰？



この連載が始まってから「仕事で新幹線に乗る」という機会が増えて、なんだかそれだけで「デキる女」になったような錯覚をおこしている、本誌の編集担当者。でも分数の割り算は、あいかわらずわかりません...

今回お話をうかがったのは、超精密研磨・超音波応用機器などを手がけている(株)クリスタル光学さん。琵琶湖のほとりという最高のロケーションにそびえる本社で、代表取締役社長・桐野茂氏にお話をうかがってまいりました！

第8回目 株式会社 クリスタル光学



先端技術をささえる超精密研磨・超音波応用機器メーカー

株式会社クリスタル光学

〒520-0241 滋賀県大津市今堅田三丁目4-25

TEL(077)573-2288 FAX(077)573-6766 URL:http://www.crystal-opt.co.jp

お話を伺った方



代表取締役社長

桐野 茂 氏

□■今回のお題：精密研磨■□

「磨けるものは何でも磨く！」

ハル: よろしくお願ひします！ 御社はさまざまな材料の超精密研磨技術をお持ちになっているとうかがったのですが、実際にはどのようなものを扱われているのですか？

桐野: 主な加工品種は、半導体・液晶の製造装置用部品や光学部品などですね。被加工材質としては、ステンレスやセラミック、光学結晶から新素材まで、とにかく「磨けるものは何でも磨く」というスタンスで取り組んでいます。

ハル: 磨けるものはなんでも！ うーん、力強いなあ。昨年(2004年)9月には、本社と同じ大津市内に5つ目の工場を設立されたそうですね。御社の年商に匹敵する15億円の大型投資を行った、と新聞で拝見しましたが...

桐野: ええ。2003年に旧プリント基板工場を買い取り、大幅改造しました。全体をクリーンルーム化して、最大5×3メートルの大型部品の研

削・研磨加工ができる体制になっています。中・大型研削盤だけでも8台設置されているんですよ。

ハル: すごい！ あと、なにやらスゴイ測定器も導入されている、という情報を入手したのですが。ええと... たしか、カールなんとか...

桐野: ドイツのカールツァイス製最新3次元測定器のことですね。測定機器には誇りを持っています。会社を興す前、大手企業の研磨部門で働いていた頃は、欲しい計測機器を提案してもなかなか買ってもらえなかった。でも、良いモノづくりをするためには「評価する力」が不可欠だと思うんです。

また、前加工からきちんと測定することも重要ですね。わが社では仕上げ研磨だけでなく、中研磨を行う部屋にも、仕上げ加工と同様の測定機器をそろえているんですよ。

ハル: その真摯なご姿勢は、どの分野の仕事にも通じるような気がしますね。以前、ある有名な料理人

の方にお話を伺ったとき、「高価な素材を使っても、目には見えない材料の下準備をおろそかにしては、本当に一流の料理は生み出せませんよ」とおっしゃっていたのを思い出しました。わたしも付け焼刃な仕事をしないよう、肝に銘じなくては...

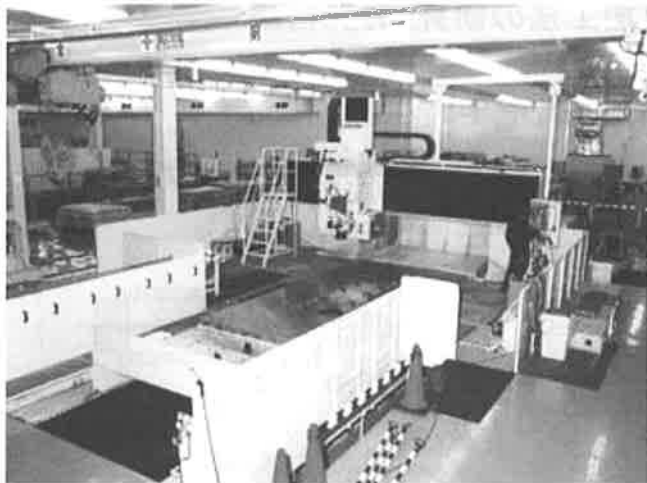
9畳のガレージからスタート

ハル: さきほど、大手企業の研磨部門にお勤めだったお話が出ましたが、会社を興されたのは、桐野社長がいくつかの頃だったんですか？

桐野: 36歳のときですね。

ハル: さ、36歳の若さで!?

桐野: 中学卒業後に堀場製作所に入社して以来、鏡面加工技術ひと筋で働いてきましたが、36歳になったとき、自分の進むべき道が見えたんです。自分で会社を興し、21年間培ってきたハンドラップの技術を事業化させるためにどうすればいいかを考えぬいた末、とにかくあらゆるものを磨いていこう、と決意しました。



←大津工場に設置されている、
5000×3000mmの大型門型平面研削盤。
ほかにも数多くのマシンがずらりと並び、
圧巻されました！

ハル:インタビューの冒頭でうかがった「磨けるものは何でも磨く」というのは、創業当時から社長が抱かれていた理念だったのですね。不躰な質問で恐縮なのですが、その若さで会社を興せたということは、もしかしてものすごい資産家であられたとか...?

桐野:いいえ、退職金を元手に、9畳の自宅ガレージからスタートしたんですよ。もちろん人を雇う余裕などありませんでしたから、妻と2人、とにかく夜昼なく働きました。1週間の睡眠時間の合計が8時間、という時期もありましたね。

ハル:すごい...。わたしだったら即座に音を上げてしまいそうです...。

桐野:体力的にはたしかにしんどかったです(笑)、努力すればその分だけ自分のものになっていくということに、やりがいを感じていましたね。会社を興し、まずはじめに赤外・紫外用測定ウインドーのレン

ズなどをハンドラップしました。

ハル:「ハンドラップ」というのは、手で磨くということですよね? うわぁ、地道な作業だなあ...

桐野:起業3ヶ月後には、以前勤めていた会社とのご縁があり、半導体製造装置用のマスフローコントローラーに着手しました。パーツ部品や金属の研磨ですね。精度を上げつつコストダウンするにはどうすればよいのか、試行錯誤の日々が続きましたね。

常に自分と時代の一步先を

ハル:創業以来、御社が急成長を遂げられた背景には、やはりそれだけの理由があったのですね。最後に、今まで桐野社長が大切にしてきたもの、そしてこれからの展望は、どのようなことなのでしょう?

桐野:わが社は創業以来、「常に自分と時代の一步先を見つめる」と

いうことを社訓としてきました。

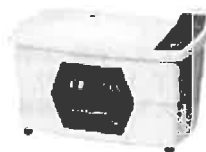
今の若い方はすぐに高いところに登ろうとして壁にぶつかり、あきらめてしまう場合が多い。そうではなく、「一步」でいいんです。いま自分にできることで、求められているものは何なのか。日々の暮らしの中でも常に「一步先」を見つめるように気をつけていれば、いくらでも訓練できますよ。

また、クリスタルな心、つまり影のない心でいれば、いろいろな人とのご縁ができる。それによって思いがけないジャンルの仕事と出会うことも多いんです。とりわけ今の日本は、国内の中小企業が力を合わせたモノづくりを必要としていると思いますね。ただし、浮き草にはならないことです。自らの基本をしっかりとふまえた上で、これからもさまざまな分野へ挑戦していきたいと思っています。

取材のあとのお楽しみ♪

取材後、(株)クリスタル光学の社長室にお邪魔しました。大きな窓からは美しい琵琶湖を一望できて、まるで別荘にお邪魔したみたいです。桐野社長が「思いついたことをすぐ実行する」工房でもある室内には、顕微鏡や治工具などがいっぱい。なんだか「いろんな夢がたくさん詰まった、男の子の部屋」という印象を受けました♪...って、こんなこと書いたら怒られちゃうかな(笑)!!

こんなもの
★見つけました★



超音波洗浄器 クリスターシリーズ

(株)クリスタル光学の自社商品に、なぜ洗浄器が!? 実は桐野社長が研磨汚れの除去に頭を悩ませていた頃、洗浄技術を持っている方と出会ったことから生まれた商品なのだそう。写真の卓上型タイプのほかにも、さまざまな商品が♪